

2014年 2月 3日

電源開発 (J-POWER)

取締役社長 北村 雅良 様

北海道平和運動フォーラム

代表 中村 誠吾

代表 江本 秀春

## 青森県大間町「大間原発」の建設中止にかかわる要請について

### <要請趣旨>

貴職におかれましては、日頃より、電力の安定供給など国民生活の維持向上にご尽力されていることに対し敬意と感謝を申し上げます。

さて、東京電力福島第一原発事故後の2012年10月に建設工事を再開した大間原発は、危険性の高いプルトニウムを含むMOX燃料を世界ではじめて全炉心に装荷する、プルサーマル発電を行おうとしています。このプルサーマル発電は、原子炉の制御がきわめて難しいとされ、炉心内の放射性物質が漏れると、その被害はフクシマの比でないことは明らかです。原子力規制委員会の田中俊一委員長も「世界に類のないことをやるのは非常に難しい」と慎重姿勢を見せています。また、プルサーマル計画をめぐるのは、北海道電力・泊原発や九州電力・玄海原発で、組織ぐるみの「やらせ」問題が明らかになりました。

大間原発は、対岸の北海道函館市からわずか30キロに位置し、福島原発事故では30キロ圏内は屋内退避区域に指定されました。函館市議会は、「建設凍結」を求める意見書を可決するとともに、3月にも、国と貴社を相手取り、「建設差し止め」を求める訴訟を東京地裁に提訴するとしています。また、すでに、函館市民らが「建設差し止め訴訟」を行っています。

産業技術総合研究所と東海大学は、津軽半島東岸の平館海峡で南北14<sup>km</sup>の海底活断層を発見しました。また、専門家はこの他にも、原発の敷地内や周辺海域の津軽海峡巨大活断層の存在を指摘しています。

青森県六ヶ所村再処理工場における高レベル放射性廃棄物ガラス固化施設でのトラブルによる相次ぐ完工延期や、高速増殖炉「もんじゅ」の事故や点検漏れにより実用化が困難なことなど、「核燃料サイクル路線」は事実上破綻しています。また、使用済み核燃料を再処理した際に出る高レベル核廃棄物の最終処分場の選定も困難な状況にあります。

つきましては、現在建設中の大間原発について、下記のとおり要請いたしますので、誠意ある対応をお願いいたします。

### ＜要請事項＞

1. プルサーマル発電の安全性への懸念があることや、「核燃料サイクル」がすでに破綻していることなどを鑑み、大間原発の建設を直ちに中止すること。
2. 専門家らが指摘している、原発の敷地内や周辺海域の津軽海峡巨大活断層、平館海峡撓曲などの活断層の存在について、電源開発の見解を明らかにすること。
3. 函館市議会などによる「大間原発建設の無期限凍結を求める決議」や、函館市による「建設差し止め訴訟」の動きに対する、電源開発の見解と今後の対応について明らかにすること。さらには、北海道に対する対応についても明らかにすること。

以 上